



株式会社 **BEE**

ITとデザインで色々な「わかる」を「つくる」をコンセプトとする弊社では、WEBサイト制作やWEBシステム・アプリケーションの開発、グラフィックデザインなど、様々なツールの企画・開発から運用・保守までをトータルサポートします。

業種 情報通信 所在地 和歌山市板屋町22 中央通りビル4F TEL 073-494-3423 FAX 073-494-3430

従業員 正規13名(男8:女5) / 非正規10名(男5:女5)

結婚・子育てのための取り組み 育児休業 / 産前産後休業 / 半日単位の有給休暇 / 短時間勤務
フレックスタイム / 家族手当 / 出産祝い金 / 在宅勤務



WEB <https://bee-design.co.jp>



出産前はリモート、復帰後は時短&フレックス 人生のステージに合わせた働き方を提案

状況に合わせた柔軟な働き方の提案で、経験豊富な人材損失を防止



デザイナーの富上さんは弊社初の女性社員で、経験・スキル・センスを持ち合わせた貴重な人材です。彼女が抜けることは弊社としては大きな痛手となるので、彼女が結婚で大阪に引っ越すことになった際には、リモートワークを導入して、遠隔で仕事を続けてもらえるように提案しました。リモートワークの導入は初めての試みだったため、当初は社内も富上さんもあまり慣れておらず、仕事の振り分け方など少なからず戸惑いはありましたが、それらは時間とともに明確になってきて、しっかり進捗管理ができるようになりました。

導入の際に必要なことは、日々のタスクをツール上で管理するためのクラウドサービスの導入と、情報を守るための万全のセキュリティ

です。このシステムをしっかりと作り上げていたので、後のコロナ自粛期間においても社員のリモートワークへの移行がスムーズにできました。

富上さんはその後、妊娠・出産を経て再び和歌山に帰ってくることで、育児休業を秋まで延長したうえで、育児休業復帰後は短時間勤務とフレックスタイム制を併用してもらい、時間給の正社員という形で9時30分から16時30分まで働いてもらっています。その際の産前産後休業や育児休業の取得も弊社初のことでした。今後も、富上さんのように人生のステージを上がっていく社員一人ひとりに合わせて、最善の提案ができるようにしていきたいです。

年内には、より品質を向上するために情報セキュリティマネジメントシステムの認証も取得予定です。社員を増やしたり情報を取得したり、社内の仕事のプロセスを変えながら、もっと働きやすい環境づくりをしていきたいと思っています。

代表取締役 / 久保田 善文さん

解消したい課題

結婚などによる優秀な人材の退職

- 会社を支えてきた経験あるデザイナーが結婚・引越を機に退職を申し出。会社としては継続して仕事をしてほしい。
- 今後もこういうことが起こると戦力ダウンが甚だしい。

課題への取り組み

育児と仕事の両立に加え、遠隔でも働けるような環境へ

- 在宅でも仕事ができるように、リモートワークに対応したネットワークとシステムを整備。
- フレックスタイム制や短時間勤務の効率的な利用方法を考え育児に対応できるように。

アイデアの恩恵

● コロナ対策として社内全体でリモートワークを行うことになったが、事前にリモートワークのための環境を整えていたため、非常にスムーズに移行できました。

導入の成果

子供が生まれても働きやすい環境が整った

- 社内での産前産後休業および育児休業の取得第一号が生まれることで、後に続く社員たちの指針となるワークスタイルができた。
- リモートワークに対応した環境が整備され、在宅でも働けるようになった。
- フレックスタイム制と短時間勤務の併用で、子供の急な体調不良や保育所の行事に対応しやすくなり、日頃の保育所の送迎もスムーズに。

現場の声

【短時間勤務を利用しているデザイナーの富上さん】

リモートワークの導入で子供のそばにいられた



リモートワークの間は必要な備品を持ち帰り、家のパソコンからアクセスしていました。遠隔での仕事は初めてで具体的にイメージできていなかったのですが、実際にやってみると社内の人とのコミュニケーションがとりにくい反面、

ことが嬉しかったです。育児休業から復帰してからは保育所の送り迎えがあるため、短時間勤務とフレックスタイム制を併用して働いています。行き詰まって進まない時などは自分で時間のコントロールが必要になり大変ですが、皆さんが支えてくれるので安心して働くことができています。これからこういった制度を利用する人も増えてくると思いますので、私が基準となるよう自覚して働きたいと思っています。



休憩時間を利用して家事ができたりと有り難かった部分の方が多い気がします。なにより産まれたばかりの子供のそばにいられた

課題解決までのプロセス